

2050年に向けて 「共生」について、改めて考える。 ～「幸せが実感できる共生のまち」への道のり～

共生の背景 多様な生き方や暮らし方を大切にするために

個人の生き方や暮らし方が多様になる一方、社会の仕組みとして、人口も経済も成長を続ける時代の考え方(※)のまま「追いついていない」状況があります。

※生産性や効率性を重視し、多様性が置き去りにされがちな考え方。

多様である=自分とは違う考えの人がたくさんいる。



違いがあるからこそ…

- 他者を理解しようとする
- 新しい価値を生み出せる
- さまざまな角度から物事が考えられる



多様な生き方や暮らし方を一人ひとりが社会の中で実現していくためには、「違いがある」ことによる良い面と悪い面とが両方あることをみなさんがしっかり認識した上で、「共生」という考え方を大切にする必要があります。

違いがあるからこそ…

- 違う意見を排除しようとする
- 自分が良ければいいと考える
- 同調圧力がはたらく



市の共生ビジョン まちづくりのキーワード

- 2012年度からまちづくりの基本理念として、「つながり」「あんしん」「みどり」という3つのフラッグを掲げています。
- 2019年度からの第6次長久手市総合計画(ながくて未来図)で、市が目指す将来像として、「**幸せが実感できる共生のまち長久手**」を掲げ、まち全体で「共生」にチャレンジする決意を示しています。
- 「つながり」「あんしん」「みどり」を「共生」という視点で捉えると次のように考えることができます。

つながり

一人ひとりに役割と居場所があるまち
= 多様な人が**生きる**

あんしん

助けがなかったら生きていけない人は全力で守る
= 多様な人が**生きられる**

みどり

ふるさとの風景を子どもたちに
= 多様性を**育む**



市職員共生アンケート 「共生のまち」に向けて大切なことは

「共生」と聞いてイメージするものや、理想とするあり方については、人それぞれ異なります。

「共生のまち」を目指すにあたり、「大切にしたいこと」を改めて整理するため、11月に職員アンケートを行いました。

職員には、職務としてではなく、一個人の立場で、共生についてどう考えるか、答えてもらいました。その結果を次ページ以降にまとめました。

アンケート項目

テーマ(主題)

「共生」と聞いて、誰・何との共生が思い浮かぶか

エピソード(現状)

あなた視点での共生の現状を、経験を踏まえつつ記述

ビジョン(理想)

幸せな共生の姿はどのような状態かを記述

ワンアクション(着手点)

現状を理想に近づけるためのファーストステップとして考えられることを記述

